



# カラムシの帯 越後情緒豊か

### 色彩専門家(越)ら商品化

上杉謙信の時代の重要な産物だった植物「カラムシ」を素材に、越後の四季をイメージした色で染めた帯がこのほど、上越市の色彩専門家と十日町の会社により商品化された。地域に根差した

「えちごなないろ」の各色が表裏に配したカラムシの帯―上越市内の展示会

「ネオ昭和(十日町市)が共同開発した。

宮崎さんは、アパレル

さらめく感性とロマン

## 現代アートの旗手たち ネオテニ―展

〔5〕

動物の骨に寄り添う、大きな瞳の少女が巨大な変形キャンバスに描かれた本作品は、一見、写真かと思まがうほどリアルですが、細部まですべて筆で描かれた油彩画です。作者の加藤美佳(1975年、三重県生まれ)は、愛知県立芸術大学在学中からこの作品が発表された2001年までの3年間で、たったの6点しか絵画作品を完成させていません。その理由は彼女の

## 加藤 美佳



制作方法にあります。

加藤はまず、モチーフとなる人形を作ることから始めます。木芯に粘土で成形して着彩した人形の、目にはガラス玉を、頭髮には人毛を使用するこだわり

ようです。その人形を写真

わかない不思議な雰囲気醸し出しているのは、生身の人間ではなく人形を、しかも複数のフィルターを通して描いていることによるのでしよう。その一方で、画面から感じる、彼女たちの

# 手作り人形細かに描写

圧倒的な存在感は、作者の精魂こもった産物として実在する、人形のリアリティの表出にはかなりませ

市の妙高高原メッセでトクシヨを開いた。石川さんは「妙高山をいろ

石川弘樹さんがトレイ語った―妙高市の妙高

イメージした「杉山」、日本海の「夕映、秋の「穂」など7色を「えちごなないろ」として考案。色の名も、越後らしさにこだわった。この中から1色ずつを半幅帯の裏表に配した。リバーシブル

で使える。注文製作で、十日町市の職人が友禅の技術で一点一点手染めする。1本2万6250円。「光沢が美しく、一度締めると形が決まって崩れにくいのも特徴。体になじむの

で初心者にも使いやすいですよ」と宮崎さん。「似合う色、手持ちの着物と合わせやすい色では宮崎さん、090(8

崎さんがカラー診断し、その人に似合う色を提案してくれる。問い合わせは宮崎さん、090(8613)7562。

加藤美佳《パン

ンジーズ》2

001年

とはいえ、意味深なタイトルや、表面に施された、寶石のような絵具の煌めきからは、独特のロマンチズムが感じられます。加藤は、単にリアルな絵画ではなく、イメージから想起される物語性を紡ぎ出しているのです。

彼女の描く少女たちが、そのリアルな描写にもかかわらず、どこか現実感を伴(浜田真由美・県立近代美術館主任学芸員) (おわり)

◆ネオテニ―展(9月10日まで)▼会場 県立近代美術館(長岡市千秋3)▼入場料 一般900円、大学・高校生800円、中学生以下無料▼午前9時〜午後5時(金曜は午後6時30分まで、会期中無休)